

<授業実践4> 「現代の国語」読むこと

1 単元名

フィルターバブルを理解して複数の情報を読み取り、自分の考えを深めよう

2 指導目標

(1) 単元の目標

・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。〔知識及び技能〕(2)のエ)

・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B「読むこと」(1)のイ)

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕)

(2) 言語活動

ア 言語活動

複数メディアの情報を読み取り、自分の意見をまとめる。

イ 言語活動のねらい

近年では教科書等の出版物ではないメディアに触れることが多く、考えが偏ったり、過激な意見へと増幅したりすることがある。そのような時代では、中立的に文章を読み、広い視野の下で自分の意見をもつことが求められる。本単元では、ネットニュースを題材として、文章を多面的・多角的に読み、自分の意見をもてるように指導する。

(3) 教材

ア 教材

岡真理「開かれた文化」(『現代の国語』筑摩書房)

イ 教材観

本単元ではパレスチナ問題を取り上げる。単元の指導に当たっては、指導者は中立的な立場で指導する必要があり、生徒の実態に応じて話題選びには十分注意しなければならない。

生徒はネットニュースに触れることが多く、今回のようにネットメディアを活用することで、実生活で触れる情報にはどのような偏りがあるかということに気付くことができる。新聞やネットニュースを比較することで、多面的・多角的な読み方ができるようになることが期待できる。なお、本単元は科目「公共」の授業でメディアリテラシー及びフィルターバブルへの対応を学習した後に実施する。

(4) 学習者観

集中力が高く、書かれた内容を読み取る力も高い。文章を読むことに慣れている生徒も多いが、書かれていることをそのまま信じやすい。また、複数の文章を読み比べた経験は少ないため、本単元を通して、情報を整理して批判的に読む力を伸ばしたい。

(5) 主体的・対話的で深い学びの工夫

身近なメディアであるネットメディアを用いることで、実生活との関わりが深いことを意識させた。また、フィルターバブルから抜け出すためには他者とコミュニケーションをとることが効果的である。

ニュースをクロスチェックする中で自分の意見を形成しつつ、コミュニケーションをとることで、広い視野の下、考えを深められるようにした（主体的・対話的）。

生徒が日常で触れることの多いネットニュースを題材にして、その社会的な問題を考えさせながら、自分の意見をもてるように指導した。また、科目「公共」と連携することで、教科横断的な学びも期待できる（深い学び）。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。	複数の情報の特徴を読み取り、自分の意見をまとめる活動を通して、粘り強く課題文と他の情報を関連させて、学習課題に沿って取り組もうとしている。

(2) 評価方法

ア 知識・技能

定期試験によって評価する。

イ 思考・判断・表現（読むこと）

ワークシートの課題文のフィルターと意見文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
書き手の意図を解釈し、自分の考えを深める。	複数の情報と課題文を適切に関連付けながら、多面的に書き手の意図を解釈するとともに、多角的に問題を捉え、自分の考えを深めている。	他の情報と課題文を関連付けながら、書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。	テーマに沿って自分の考えをまとめている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

ワークシートの課題文のフィルター④と振り返りの記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
課題文のフィルターに気付くために他のメディアの記事と比較している（α）。	粘り強く複数のメディアと具体的に比較することで、課題文のフィルターを読み取ろうとしている。	粘り強く他のメディアと比較することで、課題文のフィルターを読み取ろうとしている。	課題文のフィルターを読み取ろうとしている。

課題文のフィルターを踏まえて、読み直し、自分の考えを深めている(β)。	フィルターバブルから抜け出すために、立場を変えながら課題文を読み直すことで、自分の考えを深めようとしている。	フィルターバブルから抜け出すために、改めて課題文を読み直し、自分の考えを深めようとしている。	課題文を読み直し、自分の考えを深めようとしている。
-------------------------------------	--	--	---------------------------

※ α・βは、それぞれ「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」とする。

4 単元の指導計画（配当5時間）

次(時間)	学習活動	言語活動における指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	評価上の留意点 ◇観点 □点検・確認■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた文化」を通読し、要旨をまとめる。 ・「フィルターバブル」と「開かれた文化」とのつながりに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付し、要約させる。 ・科目「公共」で学習した内容を記述させる。 *フィルターバブルから抜け出す活動であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇(知) □「記述の点検」(机間指導) *他の生徒と意見を共有させる。
第2次(3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題文を読み、初読の感想を述べる。 ・複数の情報を整理し、それぞれの特徴を捉える。 ・整理した情報を基に、課題文を批判的に読み直す。 ・複数の視点をもって課題文について考えたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見出しやリードの役割や言葉遣いにも着目させ、表にまとめることで書き手の立場を可視化させる。 ・課題文の書き手の立場を明確にさせる。 ・新聞を紹介する。 ・複数の情報を得た上で、課題文をどう読むべきか考え、自分の意見を述べさせる。 *比較・整理するだけでなく、自分の意見をもてるように意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇(思) □「記述の確認」(ワークシート) *他の生徒の意見を参考に、ワークシートを完成させる。 *意見文が不十分なものは、ワークシートへのコメントで単元のポイントを説明する。

第3次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を相互評価する。 ・相互評価を基に意見を練り直し、完成させる。 ・単元を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・偏った情報のみで結論付けていないか確認させる。 ・初読と比べて深まりがあるか確認させる。 *他者の意見と自分の意見との違いを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (思) (態) ■ 「記述の分析」(ワークシート) *課題文の書き手の立場を全体で共有し、情報の偏りに気付かせる。
--------------	---	---	---

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

複数の情報を基に、書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めながら意見を述べることができる。

(2) 本時の具体的な評価規準

複数の情報を基に、書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めながら意見を述べている。

(3) 本時(全5時間中の4時間目)の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本時の目標と言語活動について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①整理した情報を基に、課題文を批判的に読み直し、自分の考えをまとめることを伝える。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題文の真偽を確かめ、特徴を捉える。 ・課題文の内容について、自分はどのような意見をもつか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ②整理した情報を活用して、課題文と関連させ、疑問に思う点は更にファクトチェックを行う。 ③課題文の情報の偏りや書き手の立場について分析する。 ④課題文の特徴を踏まえて読み直したとき、自分はどのような立場に立っているかを明確にし、意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ②チェックをする際に、恣意的にならないように注意させる。必要に応じて自分でも情報を集めさせる。 ③前時までに情報を整理したように、見出しやリードの役割を踏まえ、言葉遣いにも着目させる。 ④感情的な意見とならないように、多面的・多角的に考え、根拠が説明できるようにさせる。 ■ワークシートを基に、ループリックによって評価する。 *自分の意見を形成するまでの過程で、どこが分からなかったかを確認させ、ワークシートへのコメントでフィードバックする。

終結 (15 分)	・本時の内容を振り返る。	⑤情報には偏りがあることや、書き手の立場を理解する必要性があることを理解する。	⑤文章を批判的に読む方法とその必要性に気付かせる。
-----------------	--------------	---	---------------------------

6 研究の実際と考察

(1) 主体的に学習に取り組む態度の評価について

(α) 「粘り強い取組を行おうとする側面」

ワークシートの「課題文のフィルター」の④「③を書くにあたって、どのような情報をどのように課題文と関連させるか」の記述を分析した。課題文を正しく読み取るためには、クロスチェックが必要である。他のメディアと関連付けながらクロスチェックを粘り強く行うことを期待している。

【A評価】

NHKでは、ハマスには軍事部門以外にも慈善活動や教育支援を行う部門があることや、イギリスの三枚舌外交が原因の一つになっていることが書かれている。また、アルジャジーラでは、人や物資の移動が制限され、ガザでは人道的危機が起こっていることが書かれている。これらはイスラエルには不利な情報であり、課題文では述べられていない。

【B評価】

ガザにいるパレスチナ人に被害がどれだけ出ているかというのが書かれていないので、ハマスが攻撃を続けていることは分かるが、イスラエル軍の動向が分からない。

課題文と他の情報との比較において、複数のメディアと具体的に読み比べているものをA評価とした。

(β) 「自らの学習を調整しようとする側面」

ワークシートの「振り返り」の記述を分析した。単元の目的を理解し、自らの学びを深めるために具体的に見通しをもって取り組めたかを評価した。

【A評価】

他の記事には書かれているが課題文には書かれていない情報を読み取り、それを基にどのような立場で記事が書かれているかを考えた。意見文を書くときは、偏った情報だけでなく、自分と反対の立場の情報にも目を向けるように気を付けた。どの記事もうそを書いているわけではないのにかなり違う印象を受けたので驚いた。

【B評価】

課題文や他の情報を見るときに何が事実かを見定めて、誇張のある表現や主観が入ったものをうのみにしないように気を付けた。

文章のフィルターに気付き、そこから抜け出すために、複数の立場で文章を読み直そうとしているものをA評価とした。

(2) 思考・判断・表現の評価について

ワークシートの「課題文のフィルター」及び「意見文」から、ルーブリックに照らし合わせて評価した。

【B評価】

他の情報と課題文を関連付けながら、書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めることができている。

○生徒Ⅰ

「課題文のフィルター」

ガザやハマス側についている人たちの考えを述べているように感じる。パレスチナ人やガザが一見悪いのかと思うように見出しがあるが逆接でそれを反転させているように感じる。

「意見文」

私はイスラエル側に賛成です。まずイスラエルを支持する一番の理由は、昔はパレスチナはイスラエルの人たちの国であり、イギリスの三枚舌外交によって不本意な形にさせられた被害者であるからです。また、そもそものハマスの戦争の始まりがハマスによる攻撃だったからに加え、彼らの権利を守るためには戦争をするしかなかったと考えるからです。たしかに、イスラエルはやり過ぎという意見もあります。しかし、例えばアメリカが小国に攻撃されて反戦しなかったらなめられてしまいます。したがってイスラエルの攻撃は仕方ないことでもあり、必要なことでもあるのです。

○生徒Ⅱ

「課題文のフィルター」

他の記事では、イスラエル側が過去に国際法上認められていない範囲まで占領したことや、入植地をつくったこと、ガザやレバノンに侵攻していることが書かれていたが、課題文には書かれていない。ここから、課題文はイスラエル側がした攻撃などの情報を載せないことでイスラエル側を擁護していて、ハマス側が悪いという印象を与えている。

「意見文」

課題文では、「ハマスが自爆テロをくり返している」とあり、ハマスばかりが攻撃をしかけているように読み取れる。自爆テロを行っていること自体については、よくないことであり、ハマス側にも非がある。しかし、課題文にはほとんど書かれていないが、イスラエルも激しく残虐で無差別的な攻撃をしており、パレスチナ人側の死者はイスラエルの約 40 倍だ。また、現在対立が続いている背景には、国連決議で決められた領域をこえてイスラエルが攻撃をし、占領したという過去がある。また、今回の戦争のきっかけはハマスがテロ行為をしたことであるが、イスラエル側の攻撃は「自衛権の行使」というには酷すぎる。このように、課題文ではハマス側が悪いように読み取れるが、それ以上にイスラエル側の方が悪いと考える。

(i) 「課題文のフィルター」

生徒Ⅰは課題文の書き手の意図を読み取ろうとしているが、具体性に欠け、一面的である。生徒Ⅱは国際関係や侵攻状況に具体的に触れており、多面的に文章を読み取っている。

(ii) 「意見文」

両生徒とも他の情報と関連付けながら、課題文の書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。しかし、この問題を「今起こっていること」を根拠としていて、なぜ双方がこのような行動をしているのかという根本的な背景に迫ることができていない。A評価に達するには下線部で歴史的背景に触れ、双方の行動の背景を複数のメディアから読み取る必要がある。

指導事項では「自分の考えを深めること」となっているが、問題を一面的に捉えることなく、問題の背景を多面的に捉えたり、反対の立場に立って多角的に考えたりすることができていることを考えの深まりとして評価した。

【A評価】

複数の情報と課題文を適切に関連付けながら、多面的に書き手の意図を解釈するとともに、多角的に問題を捉え、自分の考えを深めることができている。

以下のa～cを満たすものをA評価とした。

a 「課題文のフィルターを多面的に読み取れている」

課題文のフィルターを複数項目で読み取り、ワークシート「課題文のフィルター」に記述している。

b 「問題の背景を双方の歴史に着目して読み取れている」

ハマスとイスラエルの行動の背景を読み取り、ワークシートの「意見文」に記述している。

c 「自分の考えを述べている」

パレスチナ問題における自らの立場を明確にしている。

○生徒Ⅲ

「課題文のフィルター」

ユダヤ人が急にパレスチナに来て、イスラエルをつくったみたいになっている。ハマスが過激であるという内容だが、イスラエル軍が国際法に違反し、無差別爆撃しているといった、互いに攻撃し合っているということが不足している。

「意見文」

イスラエルが加害者であると思う。ユダヤ人の国であるイスラエルであるが、2000年前にユダヤ人はパレスチナの土地を追放され、やっとパレスチナに戻ってきて、合意の下建国することができた、壮絶な過去がある。建国後もパレスチナに反発され、第一次中東戦争が起きたのだが、ここまでは被害者であると思う。この後、イスラエルは国際法上認められていないところまで占領し、パレスチナがもう反発できないように数年に一度無差別爆撃を行い、また、パレスチナ人が今度は土地を追われ、苦しい生活を強いられるようになったのである。そう考えると、ハマスがイスラエルに武力闘争する理由にも納得できる。したがって、イスラエルが加害者。

(i) 「課題文のフィルター」

「テロ組織」という表記や歴史的背景、国際法、攻撃の程度など、複数の視点で課題文を読み取っている。

(ii) 「意見文」

自らの立場を複数の情報と関連付けながら述べている。また、下線部では自分が支持する立場とは反対の意見を挙げており、それが歴史的背景に関するものである。2023年10月7日にハマスがイスラエル側に攻撃をしたからイスラエルが反撃している、といった表面的な解釈をせず、なぜハマスがイスラエルに攻撃をしたのか、なぜイスラエルが自らの権利を主張するのかなど、両者の立場を理解した上で課題文を読み直し、自分の考えを深めていると言える。

7 研究の成果と課題

(1) 題材について

まず、今回の単元はハマスかイスラエルのどちらかを支持するものではなく、フィルターバブルから抜け出すための「読む力」を付けることであるので、生徒は自由に自分の立場を主張することができる。なお、全体を通して指導者は中立的な立場で指導する必要がある。また、パレスチナ問題は現在進行中の問題であり、取り扱いに際しては生徒の実態を十分把握した上で、生徒に心理的な負担を与えないよ

うにしなければならない。

パレスチナ問題については、知識がある生徒はほとんどいなかったが、知識がないからこそマスメディアに影響を受けやすく、たまたま読んだネットニュースを信じやすくなると言える。本単元では、最初に課題文を読ませた後に、他のメディアに触れ、改めて課題文を読み直すという進め方をしたが、初読の感想と最後の意見文とを比較すると、3割ほどの生徒が初読の感想と反対の考えをもつに至った。他のメディアを読み、知識を付けたからこそ「表記の違い」や「書かれていないこと」に気付くことができたのだと考えられる。

また、ネットメディアの普及により、フィルターバブルに閉じ込められたり、偏った考えが増幅したりしてしまうため、その対抗策としての「読む力」の育成が重要だと感じた。

(2) 成果と課題

課題文の年表でもあるように、2023年10月7日にハマスが攻撃したことを契機として現在の状況があるが、10月7日だけを切り取って判断してはならない。多くの生徒がそれを理解し、受け取った情報を鵜呑みにすることなく、複数のメディアを参照しながら課題文を読み直していた。ファクトチェック・クロスチェックをすることが、多面的・多角的な読みを可能にし、自分の考えを深めることにもつながったと考えられる。一方で、一面的な情報のみを根拠に意見文を書く生徒も数名いた。グループ活動も重ねた上で意見文を書かせたが、そういった生徒の視野を広げることはできなかった。多面的・多角的に読むことも継続的に指導していく必要があると感じた。

今回は読むことなので、文章を読み取り、自分の考えを深めるところまでだったが、この問題を解決するために何ができるか、各国はどう対応すべきか、など発展的な考察もできる。他の指導事項や他の科目へつなげることも可能である。